現在の臼杵城下町の形成は、大友宗麟が構築した市街地を基礎として、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いのあと、岐阜の郡上八幡（ぐじょうはちまん）から国替えとなった稲葉家によってなされました。臼杵藩の城下町プラン（町割り）は、慶長13年（1608）の堀川の造成から始まり、17世紀の後半には、南から伸びた舌状台地と、海浜や入り江を埋め立てて造成した低地からなる狭い地形の上に三の丸町人町、寺町、侍町が配置され、今に残されている町割りが完成しています。

臼杵城下町の特徴は、城に近い位置に町人町がありその周囲を寺町と侍町がとりまいていることです。

臼杵市歴史資料館

臼杵市には国宝臼杵磨崖仏などたくさんの文化財があります。その中でも市が所蔵している古文書、典籍、絵図などの歴史資料は総数で3万5千点を数えます。特に絵図資料は、江戸時代以降まとまって伝わっている資料群としては、全国有数の希少価値の高いものとなっています。

当館では「臼杵の過去・現在・未来をつなぐ」をテーマに、日本の中で、ときには世界の中で臼杵がどのように遷り変ってきたかなどわかりやすく、ご紹介しています。

ご利用案内

ご利用時間・料金

- ●開館時間　9:30～17:30　入館は17:00まで
- ●休 館 日　火曜日（祝日のときはその翌日）・年末年始
- ●入 館 料　一般330円　学生160円
- 団体料金（20名以上）　一般280円　学生140円
- 通年手形　一般660円　学生330円

交通案内

- ●バ　ス　JR臼杵駅から臼津交通バス住吉橋バス停下車 徒歩5分
- ●タクシー　JR臼杵駅から約10分
- ●自家用車　東九州道臼杵ICから約10分

※学生は19歳未満で学校教育法に定める学校に通う方
※通年手形は、購入から1年間であれば何度でも入館ができる券です
※次の方は無料です
・未就学児
・臼杵市内に住む小学生、中学生、高校生、特別支援学校生、高等専門学校生
・臼杵市内の高等学校および特別支援学校に在学する生徒
・臼杵市内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育課程で引率する方
・障がいのある方とその介護者１名

ミュージアムグッズの販売

受付では、臼杵の歴史資料にちなむミュージアムグッズを販売しています。

よみがえる臼杵の歴史ツアー

＜『臼杵城下絵図』であるく、歴史資料館見学ツアー＞

臼杵市観光交流プラザを起点・終点に
ガイドと『臼杵城下絵図』を歩いてみませんか?
一緒に臼杵市歴史資料館を見学しましょう!
ご希望の方は臼杵市観光交流プラザまで
お問い合わせください。

要事前予約・有料

お問い合わせ

臼杵市観光交流プラザ	TEL. 0972-63-1715（イナイコウ） FAX. 0972-63-5388
臼杵市歴史資料館	TEL. 0972-62-2882

2026.03.10000

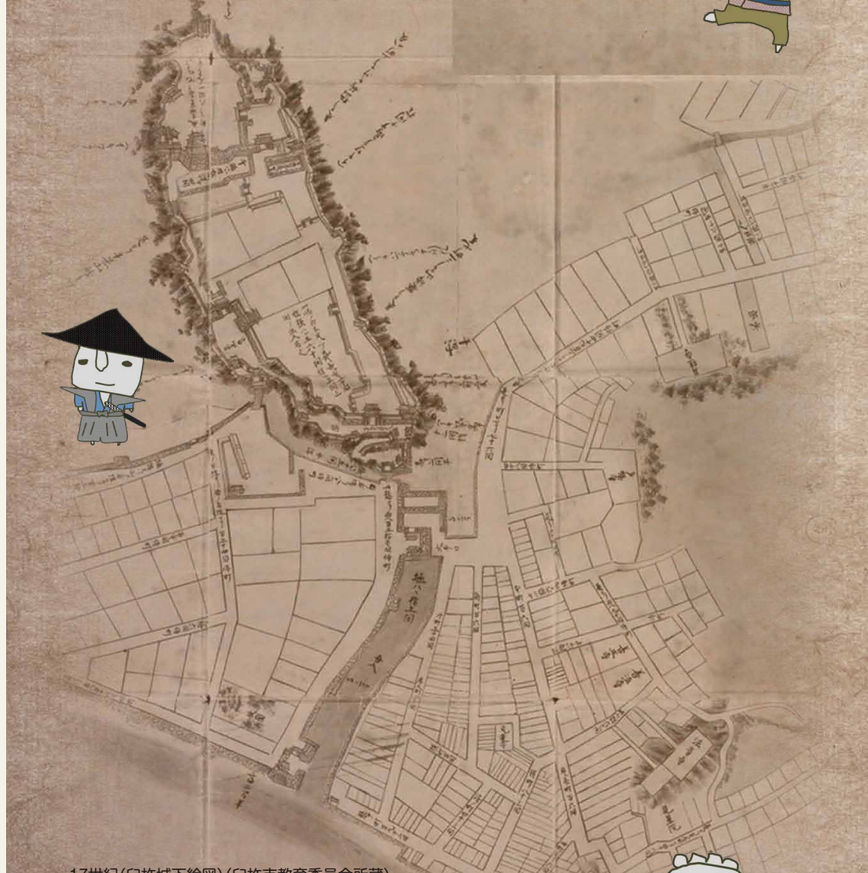
『臼杵城下絵図』であるく 臼杵のまち

6

距離：2.8km　所要時間：2時間（資料館30分）　消費カロリー：159kcal

うすきあるき MAP

城下町臼杵の複雑な街路とその道幅は江戸時代とほとんど変わっていません。また、町名も昔のままです。絵図とともに散策すれば、まさに歩く博物館となります。臼杵市歴史資料館や街並みガイドがさらに臼杵の歴史ロマンを膨らませてくれます。



17世紀（臼杵城下絵図）（臼杵市教育委員会所蔵）

うすきあるきとは?

マップを片手に自分のペースで好奇心のおもむくままに色々なところで立ち止まりながら臼杵の町歩きを楽しめるコースです。

USUKI ARUKI　ゆっくり、ゆったり臼杵時間

『臼杵城下絵図』であるく臼杵のまち

（臼杵城下絵図）寛永5年〈1628〉～万治3年〈1660〉

＜臼杵市教育委員会所蔵＞

当時の絵図を加工しています。

1 臼杵市観光交流プラザ

スタート/ゴール

絵図名：大手口(辻)

観光交流プラザのある場所は“辻”といい、臼杵城の大手門、堀川（唐人町）、新町、大手筋（八町大路）、街道筋（府内、野津、津久見をつなぐ街道）が交わる城下町の起点となっています。寛永時代後半（1640年）頃には、辻を中心に放射状の道がのびた町割りが完成したと考えられます。観光交流プラザは、臼杵城下町を訪れる人々の玄関口としての役割を果たしています。

2 八町大路

絵図名：本町

本町筋は丹生島の西端から旧来の切り通し（現二王座）を経由した街道とは別に、市街地を貫いて大手筋が引かれ、城へ向かう路として永禄期（1563年～）に造られました。元禄14年（1701）、六代藩主稲葉知通は今を出し、毎月定例の日を臼杵城下の市と定め、以来本町と畳屋町を以て市場としました。今も、毎月第一土曜日には市を開き町の伝統を継承しています。

3 二王座歴史の道

絵図名：侍町

江戸幕府の諸宗寺院法度や寺請制度（檀家制度）の発令により、臼杵藩では寛永元年（1624）頃より、多くの寺院が建立・移設され、寺町が形成されました。その中心となったのが二王座の道筋です。寺院の宗派は浄土真宗、日蓮宗などの鎌倉仏教で、江戸時代には多くの門徒たちがこの地を訪れ賑わいを見せたといわれています。

二王座の道筋や台地は武家屋敷が建ち並び、今も白壁や石垣、門などが残り、昔を偲ばせてくれます。

4 甚吉坂（じんきちざか）

古い地名：甚吉坂

9万年前の阿蘇の噴火で形成された凝灰岩を掘り崩して造った“切り通し”の道で、天正14年（1586）の島津軍との攻防戦で激戦地となった坂です。島津との戦いで、活躍をした大友宗麟の武将吉岡甚吉の武勲を讃え、古くから“甚吉坂”と呼ばれています。

5 田町（たまち）

絵図名：田町

寛永4年（1627）、城の周辺に住む商人や職人を転居させるために塩田を埋め立てて造られた町で、後に、鍛冶屋などの職人の町として、木賃宿や馬宿もあり、農山村からの宿泊者で賑わいました。

6 畳屋町（たたみやまち）

絵図名：畳屋町

大友宗麟の時代、畳屋町の一角には、キリスト教会や修練院（ノビシャド）があったといわれています。江戸時代になると商人の町となり、呉服屋、金物屋、茶碗屋などの商家が軒を並べ、今も残る蔵造りの家々は当時の名残をとどめています。

7 臼杵市歴史資料館

古い地名：京泊

歴史資料館は、戦国時代、ポルトガルや明との交易が盛んに行われ、人々で賑わった京泊（きょうどまり）という港の跡に建てられています。資料館では、市が所蔵する絵図等の歴史的資料を順次公開しています。

8 掛町（かけまち）

絵図名：唐人懸ノ町（とうじんかけのまち）

掛町は、文禄時代（1592～1595）までは唐人懸ノ町と称し、後に懸ノ町と名を変えました。唐人町から畳屋町にかかる町の全長は百九十二間（約350m）で、町八町の中で最も長く、堀川が出来るまで港町として栄えた所です。懸ノ町には、荒物屋、乾物屋、漁具店があり浦前（漁村）の人々が買物をする市場ともなっていました。

江戸期後半には魚屋も増え、隣接する横町、浜町とともに“うおんたな（魚店）”と呼ばれました。

9 横町

絵図名：横町

10 浜町（はまのまち）

絵図名：濱ノ町

江戸時代、町のほとんどが魚を扱う店で、旧暦の12月15日から開かれた“しょうもん市（塩物市）”には農村から、遠くは小国、高森、竹田、三重、野津からも魚（干物）を買い求める人々が集まりました。田町の宿に泊まり、夜は、“うおんたな”の店先で「生魚（無塩）」「鮗（ろくろう）なます」、そして横町で生まれ、今や郷土料理として食されている「キラスマメシ」等を肴（さかな）に酒を楽しんだそうです。

江戸時代の末期になると、この町では、酒や醤油の醸造も盛んとなり、町の店先での販売が拡大し、城下町の経済が活性化したといわれています。

11 新町

絵図名：新町

慶長13年（1608）、三の丸沿いに堀川を通し、この時掘り上げた土で海を埋め立て、後の元和3年（1617）に誕生したのが新町です。町の長さは、本町と畳屋町と同じ百六間（193m）となっています。

12 唐人町（とうじんまち）

絵図名：唐人町

大友宗麟時代、対明貿易が盛んに行われ、多数の明人が居住していたことが町名の由来となっています。江戸時代初期に、唐人町の裏路に堀川が通って以来、唐人町は港町として機能し、幕末の絵図には物資の管理をする物資役所が描かれています。

13 三の丸

14 臼杵城跡

古い地名：丹生島

臼杵城の古橋から八坂神社まで真っすぐのびる三の丸の大手門筋の右側には、家老や上級武士の屋敷、評定所（裁判所）が置かれ、江戸時代後半には、三の丸内に総役所や藩校が設置され、三の丸は臼杵藩の政治と文化の中核となりました。参勤交代の折、城主は大手門前の堀川から乗船し、出発しました。